



あおもりの未来
技術でサポート

野菜研究所ニュース

No.28 2021.6

青森県産業技術センター 野菜研究所

< 掲載記事 >

○新所長から挨拶

○令和3年度各部の研究紹介

- ・大雨によるナガイモの穴落ち被害を防ぐ(栽培部)
- ・ニンニク・ナガイモの新品種を育成(品種開発部)
- ・シルバーマルチでアブラムシ飛来軽減(病虫部)

○トピックス

- ・ニンニク優良種苗生産研修会
- ・スマート農業機械の実演・見学会
- 人の動き・新採用職員の紹介
- ・転出入者

新所長から挨拶

この度、青森県産業技術センター野菜研究所長を拝命しました木村勇司です。当研究所には昨年度、研究管理監として赴任し、2年目となります。それまでは、農業試験場～農林総合研究所で病害虫分野の研究を担当してきました。当研究所に来てからは専ら研究管理の業務でしたが、昨年、スマート農業実証事業の代表者も任され、野菜産地における労働力不足解決のためスマート農業の重要性を大いに認識させられました。



現在、私たちは新型コロナウイルス感染症による未曾有の惨禍にさらされています。県内でも多くの感染者が報告されるとともに、経済的ダメージも大きく、農業生産への影響も懸念されます。そうした中、ピンチをチャンスに変えるという発想もあり、健康志向が高まる中でニンニクやナガイモの機能、効能が見直されており、県内農家にとって大きなチャンスとなるのではないのでしょうか。

当研究所では、ニンニクやナガイモを中心とした生産力向上技術、新品種開発等により農家の儲けにつながる研究を行っていますので、今後ともよろしく願いいたします。

野菜研究所 所長 木村勇司

大雨によるナガイモの穴落ち被害を防ぐ（栽培部）

近年、気候変動により雨の降り方が激しくなりました。ナガイモは、植え溝を深さ約1mでトレンチャー耕起し、土を柔らかくした所に種イモを植え付けます。そうすることで真っ直ぐ形のいいイモができるのですが、反面、大雨により植え溝の土が沈下する「穴落ち」が発生し、イモの生育を妨げ、品質低下をもたらします。そこで、ほ場周囲に明きよを巡らすとともに畝間にサブソイラで水を逃す溝を掘ることで穴落ち被害を軽減できるか検討しています。



大雨後の穴落ち



ほ場周辺の額縁明きよ

ニンニク・ナガイモの新品種を育成（品種開発部）

当研究所ではニンニク・ナガイモの優良品種の開発に取り組んでいます。ニンニクでは、福地ホワイト（黒石A系統）から優良株の選抜を進め、現在2系統を選び出しています。いずれも黒石A系統よりも球の肥大性がよく、1りん片が大きいという特徴があります。今後、これらから1系統を選定し、品種登録出願する計画です。また、ナガイモについても優良株の選抜をすすめており、現在2系統を選び出しています。



ニンニク新品種試験ほ場近景

シルバーマルチでニンニクのアブラムシ飛来軽減（病虫部）

ニンニクの収量を減らす原因の一つがウイルス病の感染です。これはアブラムシが媒介します。しかも、汚染株から飛んできたアブラムシの一刺しで感染します。そのため、できるだけ飛来を防ぐことが必要となります。そこで、アブラムシが忌避するシルバーマルチを張りニンニクを栽培して飛来を防げないか試験しています。結果は、完全には防げないもののアブラムシの飛来数を大幅に減少させました。今後はニンニクでのウイルス感染の状況を調査する予定です。



黄色水盤トラップによるアブラムシ飛来調査(手前シルバーマルチ)

ニンニク優良種苗生産技術研修会

県農産園芸課と全農あおもりが主催するニンニク優良種苗生産技術研修会が5月26日に当研究所で開催され、JA担当者、普及指導員等の41名が参加しました。開催に先立ち、病虫部が試験を行っているドローンによる省力防除について実演が行われました。実演ではニンニクほ場に濡れると変色する感水紙を設置し、散布液の付着状況を観察しました。

研修会では、ニンニクの生育状況が報告され、5月10日現在の生育は平年並から平年を大幅に上回っており、収穫期が早まると見込まれることから収穫・乾燥の準備を計画的に行うこと、春腐病の発生は平年並だが一部ほ場で発生が目立っていることなど説明されました。引き続き、当研究所から収穫までの病害虫防除管理、りん片分化期後の積算気温から見た収穫時期の判断と収穫後の乾燥のポイントについての説明を行い、活発な質疑があり終了しました。



ドローン散布で薬液付着状況を観察



ニンニク生育状況を説明



スマート農業機械の実演・見学会

昨年度、当研究所ではナガイモのマルチ栽培で用いる施肥同時マルチ張り機や自動操舵トラクタ、農業散布ドローン等を導入し、各種試験に取り組んでいます。今回は、第1回目として6月9日に施肥同時マルチの作業時間測定を兼ねた実演・見学会を行いました。ナガイモのマルチ栽培では、種苗の植付後に肥料をまき、土をかけながらマルチを張る

という作業を一貫で行うことで、労力を減らすことができます。労働力不足解決のためスマート農業は大いに注目されています。当研究所では、今後も自動操舵トラクタなどの実演会や体験会を開催し、スマート農業の普及に努めていきます。



スマート農機実演・見学会の様子

人の動き

○本年度は新採用として1名当研究所に赴任しました。よろしくお願ひします。

新採用者：品種開発部所属 古屋 美波（ふるや みなみ）

新採用者から一言：

まだ働き始めてから短い期間ではありますが、たくさんの初めてを経験し、学ぶことが多い毎日です。野菜研や仕事で関わる現場のみなさんから多くの知識を吸収できるよう、日々勉強して参ります。

○転出者(令和3年3月31日付)

職名	氏名	新所属
所長	今 満	退職
主査	中村 平	県へ復帰

○転入・昇任・再任用者(令和2年4月1日付)

職名	氏名	旧所属
所長	木村 勇司	研究管理監
研究管理監 栽培部長事務取扱	細田 洋一	総括研究管理員 栽培部長事務取扱
総括研究管理員 病虫部長事務取扱	新藤 潤一	病虫部長
主幹	高橋 久子	上北地域県民局県税部納税管理課 主幹
研究管理員	對馬 由記子	主任研究員
主任研究員	今 智穂美	青森県農林水産部農産園芸課 主査
主任研究員	齋藤 生	研究員
研究員	古屋 美波	新採用
研究専門員	庭田 英子	主任研究専門員

地方独立行政法人 青森県産業技術センター 野菜研究所
〒033-0071 青森県上北郡六戸町大字犬落瀬字柳沢91 0176-53-7171